

〔特産化を目指したカキ新品種の栽培指針確立〕
カキ「東京紅」の5角果および汚損（サビ）果の発生要因と対応策

菊池知古・近藤 健・伊藤 綾*
(生産技術科・*安全環境科)

【要 約】 5角果の混入は、目視により摘蕾時に異形花、摘果時に5角形の果実を切除することで防止できる。またサビ果の原因はカキサビダニによる吸汁であり、適期の農薬散布で防除する。

【目 的】

都育成の新品種「東京紅」は、品種特性として5角果・汚損（サビ）果の発生が比較的多い。5角果の発生割合や早期（摘蕾時）分別方法は定かではなく、外観的に質が落ちるサビの発生原因もまだ未確定である。本試験ではその発生要因・状況を把握し、回避する方法を明らかにした。

【方 法】

- 1) 5角果の発生要因の調査には「東京紅」6樹を用いた。摘蕾を5月8日に行い、異形花と5角果の関係および発生部位について調査した。
- 2) サビ果の発生要因の調査には「東京紅」12樹を用いた。殺ダニ剤散布区・無散布区を設け5月9日と6月12日に散布し、7月9日の摘果時にサビ果の割合およびカキサビダニ発生状況を調査した。また収穫時に、サビの程度別に割合を調査した。

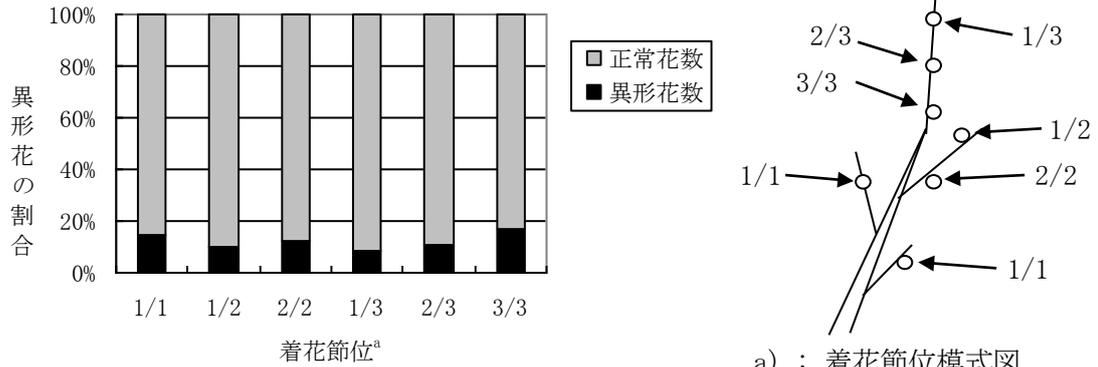
【成果の概要】

- 1) 摘蕾時の異形花発生状況を見ると、都内で生産量の多い「次郎」で0%、「東京紅」と同じ交配親である「東京御所」で7.9%であるのに対し、「東京紅」では12.6%と比較的高かった（表1）。
- 2) 着花節位別に総着花数に占める異形花の割合を見ると、どの着花節位もほぼ同様であり、その発生節位に特別な傾向は見られなかった（図1）。
- 3) 摘果時のサビ果数（率）を見ると、殺ダニ剤散布区の方がサビ果が少なかった（表2）。
- 4) 殺ダニ剤無散布区の摘果果実において、健全果ではカキサビダニは1頭も確認されず、サビ果の3割以上でカキサビダニが確認された（表3）。
- 5) 収穫時のサビ指数別個数を見ると、殺ダニ剤散布区の方がサビが無いサビ指数「0」の割合が多かった。また散布の有無に関わらず、外観的に問題が無いサビ指数「1」の割合は同様であった。サビ指数「2, 3」の割合は殺ダニ剤散布区で低くなった（表4）。
- 6) 以上の結果から、「東京紅」の5角果は、発生位置に特別な傾向が無いことから、剪定や特定節位の摘蕾で減らすことは困難である。対応策として、目視により摘蕾時に異形花、摘果時に5角形の果実を切除する事で、5角果の混入を防ぐ。また、サビ果においてカキサビダニが確認され、殺ダニ剤散布による効果も見られたことから、サビ果の原因はカキサビダニと考えられる。このサビ状斑が外観的に品質を低下させるので、適期の農薬散布によりカキサビダニの発生を防除する。

表1 カキ各品種における異形花^a発生状況

品 種	供試花数 (個)	異形花数 (個)	異形花発生率 (%)
東京紅	556	70	12.6
東京御所	815	64	7.9
次 郎	25	0	0.0

a : 花弁およびへタが5枚 (正常花) 以上の花



a) : 着花節位模式図
(数値は着花節/総着蕾数を示す)

図1 カキ「東京紅」の着花節位と異形花発生率との関係

表2 カキ「東京紅」における
殺ダニ剤散布の有無と摘果時のサビ果数

殺ダニ剤	供試果数	サビ果数 (%)
散 布	113	32 (28)
無散布	59	22 (37)

表3 カキ「東京紅」における
殺ダニ剤無散布区のカキサビダニ確認果割合

果実	供試果数	カキサビダニ確認果数 (%)
健全果	37	0 (0)
サビ果	22	7 (32)



図2 サビ指数
(上段左: 0, 右: 1,
下段左: 2, 右: 3)
※へタは撮影のため切除

表4 カキ「東京紅」における殺ダニ剤散布の有無と収穫果実のサビの程度別個数 (%)

殺ダニ剤	供試果数	サビ指数			
		0	1	2	3
散 布	121	102 (84)	14 (12)	5 (4)	0 (0)
無散布	60	38 (63)	8 (13)	4 (7)	10 (17)

